



名南デンタルだより



発行：名南税理士法人 歯科プロジェクト
〒456-0031 愛知県名古屋市熱田区神宮二丁目2番2号 TEL：052-683-9143 FAX：052-683-9106

歯科衛生士としての責任とやりがい 11

歯科衛生士達の奮闘

日本の歯科業界には、歯科衛生士の教育に情熱を傾けて下さっている歯科医師が大勢いらっしゃいますし、後進の目標としてあるいは指導者として活躍している歯科衛生士が、全国各地に次々と輩出されています。その端くれの一人として私に出来る精一杯のことを行っています。私の場合は、今まで何度かご紹介いたしました「Jokanスクール」という卒後研修に、想いと技術のすべてを結集しています。立ち上げから7年、研修カリキュラムは年々工夫を重ね充実させているつもりです。研修の目的は、「歯科衛生士としての意識と技術のレベルの向上」に尽きます。厳しいことで定評?となっているこの研修は、毎回のレポート提出を義務づけ、数回の確認テストを経て、最終月には筆記と実技の達成度テストを実施しています。修了証書に合格の丸印をもらえるのはおよそ60%ほど、1クラス5人で年間ほぼ25人の受講生から、15人前後の合格者が出ています。惜しくも不合格であった場合も補習を受けてほとんどの人が合格していきます。仕事、家庭、子育てなど、たくさんのことを抱えながら皆さん本当に奮闘しています。

歯科衛生士が頑張る理由

受講生達がここまで頑張るのは、自分の仕事に自信をつけたいというごく当たり前の理由からです。この連載で取り上げたMのような歯科衛生士、日本にはまだ僅かしかない、医院の中で存在感のある自立した歯科衛生士になりたいからです。

数年前に熊谷崇先生が、歯科医師向けの専門誌に日本とアメリカの歯科衛生士の一日当たりの収益を日本の保険点数に換算し比較したものを、掲載されていたことがあります。それを見ると日本の歯科衛生士はアメリカの歯科衛生士の約半分の収益でした。しかも日本の場合は、アメリカのように歯科衛生士と歯科助手の仕事がはっきり区別されていなく、歯科衛生士がアシスタント業務に追われることが多いのが現実であり、実質的な収益はさらに低くなる状況です。

このように社会的な地位も業界での評価もまだまだ低い日本の歯科衛生士ですが、それでも職業人として認められたい、患者さんに喜んでもらえるようになりたいという純粋な気持ちから歯科衛生士は頑張っているのです。

歯科衛生士の治療内容

さて話を、前号から続く歯科衛生士Mと男性患者に戻します。検査と説明が終わって、Mが歯科衛生士として担当する主な治療内容は以下の通りです。

口腔の健康を害する様々な要因についての改善指導
TBI（歯磨き指導）
歯石取り
治療後の再評価検査

第 1 の項目では、全身的な健康状態を注意深くチェックしていきます。中高年以上になると生活習慣病を抱えている方が多く油断が出来ません。特に糖尿病は歯周病との関連性が大きいので患者からは詳しく聞かせて頂くこととなります。いずれにせよ口腔は食事と呼吸を司る臓器という認識で仕事をするように、ここは私が特に力を入れて歯科衛生士を指導しているところです。

また、この男性患者は幸いにも喫煙者ではありませんでしたが、喫煙者の場合は特に「禁煙指導」に力を入れます。すべての治療と予防を阻害する最大の要因として、喫煙の害を説明します。

さて、第 2 項目に挙げている歯磨き指導は歯科衛生士が最も苦労している部分です。なぜなら、患者と歯科衛生士の歯磨きに対する意識には大きなギャップがあるからです。この意識差を歯科衛生士が十分に配慮して指導出来るかどうか、それが結果に大きな影響を及ぼすと言っても過言ではないのです。歯科衛生士は学生時代に素人から歯磨きのプロへと意識変革され、自分の歯を完璧に近いまで磨けるようになることが必須条件として求められます。美容師がツヤツヤ、サラサラの髪を常に保っているのと同じです。問題は、素人の患者に「どうしたらきれいに歯を磨いてもらえるか」です。患者がその気になって行動を起こしてくれなければ何も始まりません。そのために「行動科学」というような心理学の勉強をしたり・・・、意外に私達は頭を悩ませているのです。歯磨き指導は、きれいに磨いて欲しい歯科衛生士と磨いているつもりの患者のかけ引きです。中には、面倒で磨きたくない人もいますから『来てもらえるだけでいいから・・・』と諦めてしまう歯科衛生士もたくさんいるのです。

歯石取りが命

「Jokanスクール」で一年がかりで教えているのが、第 3 の項目に挙げている歯石取りの技術です。これについては最終号となりました次号で詳しく述べさせていただきます。

フリーランス歯科衛生士
上間 京子